「学芸会」やめますか？

浜田小にとって大切なことは何か？

2020.02.10
No.89
校長　渡邉　幸二

２月１７日(月)には、会議としては最後の教育課程編成会議があります。全員で議論し合えるのはそこが最後ですが、もちろん新年度の始まる直前の３月末まで、編成作業は続きます。ただ、大きな変更点を議論できるのはラストチャンスです。

これまでの会議の中で、**「学習発表会をなくす」という案**を提唱されていたグループ(先生)がおりました。**授業の充実を持続可能なものとするため**に、その発表を分散化してはどうかという提案でした。本校のような「学芸会」的な発表スタイルは、担任の負担感が大きく、かといって一堂に会して発表するので、出来栄えの差が目立ってしまい、まだ途中半端な、子どもの学ぶ「過程」を見てもらうというわけにもいかないようです。したがって、授業時間を削ってまでも、そのステージの見栄えを充実させることにエネルギーが注がれてしまうというご意見のようでした。

一方、この日は浜田小コミセンの文化祭でもあり、学習発表会に来ている子ども、保護者、地域の方が参加しやすい時間設定をしています。あまりよくない表現ですが、子どもたちを当てにしている側面があり、これは持ちつ持たれつの関係で、学校の都合だけでバッサリと切ってしまうわけにはいきません。

浜田小にとって大切なことは？

私が大切にしたいことは、もちろん**「見栄え」**ではなく、経営方針にも記している通り**「学びの過程」**です。子どもたちが学びの過程で、もがき苦しみながらも資質･能力を獲得していく過程そのものに価値があり、結果としての姿にはそんなに比重を置く必要はないと思っています。

それよりも大切にすべきことは、浜田ブランドの一つになっている**「公益･貢献活動」**ということです。浜田小学校では、学校で学んだことを、生活や地域や、世のため人のために役立てていけないかを考え、実践していこうとする営みを重視してきました。そして、この公益･貢献活動は、学習指導要領のキーワード**「主体的、対話的で深い学び」**を具現化する切り口にもなるし、**「じりつ(自立･自律)」**するための修練の場ともなると考えています。

ですから、この「公益･貢献活動」を、保護者の方に見ていただく方が、よっぽど浜田小らしいし、子どもの生の姿を、そしてつくられたものでない姿を見ていただけるのではないかと思うのです。しかも、おそらくこういう活動は、年に１回でお終いというわけではないと思います。保育園での読み聞かせがあったり、音楽発表をしてみたり、社会科で地域の方と共に学ぶ姿があったり…。５年生や６年生のように、地域で活躍する姿を見てもらうことも可能でしょう。形や結果の姿にこだわらない、**浜田小**

らしい学びの姿を見てもらう、真の意味での「学習発表」です。

保護者サイドから見れば、発表が学年ごと分散するので、特にきょうだいのいる親は学校に何回も来なくてはならないと苦言を呈する方もいるでしょう。でも、別に全部を見る必要もないし、きょうだい１回ずつとか工夫して参観することもできるでしょう。それにかわいい我が子の「親」なのですから、少々の苦労をはねのけてでも参観したいのではないでしょうか。

地域（コミセン文化祭）との折り合い

では、コミセン文化祭と、どう折り合いをつければよいか…。先ほども述べましたが、来年度からいきなりコミセン文化祭の日を通常の「休み」とすることはできないでしょう。**折衷案**として考えられる一つに、その日を「授業日」にするということが考えられます。今の計画で言えば、１０月２４日（土）を、たとえば**授業参観に**してしまうのです（これまでの１１月分として）。２時間目を授業参観、３時間目をＰＴＡ全体研修会のように設定し、お昼前には放課にする…。それであれば、コミセンにも人は流れるでしょう。

そして、なるべく早く、可能であれば令和３年度からは、コミセン文化祭の授業参観もなくしていってもいいのではないかと思います。私の地元富士見コミセンも、前任の松原コミセン、観音寺コミセンも、学校の授業日を当てにした文化祭開催ではありませんでした。ただし、これは地域がらみですので、学校だけの都合というわけにはいきません。よく話し合うなど時間をかけていく必要があるでしょう。

いずれにしても、何らかの形でスクラップを進めていかない限りは、**「本業集中」**の理想へはたどり着けないと思います。私は、十分に検討する価値のある提案だと思っています。